

CONTENTS

巻頭エッセイ「市民活動をサポート！」 P1

地域の皆さまと共によりよい社会を
大阪ガス株式会社
滋賀地区副支配人 中村 哲さん

おうみ未来塾リレーエッセイ P2

高浜のすばらしさの再発見&訪れる方をもてなす心
おうみ未来塾 第12期生
「鹿深deござれ!」 山本 周作さん

特集●未来に向かってつなげる、つづける。 P2~5

「農」で地域を元気に!
~農山村の資源を活かして地域課題を解決しよう~
内藤 正明さん

- 【活動団体紹介】
- 政所茶生産振興会
 - もち米プロジェクト

市民と企業のChangeにチャレンジ! P6~7

- フードバンクびわ湖
- 一般社団法人 比良里山クラブ
- ぐるりの家
- 株式会社 一花

Changeにチャレンジ! 応援BOX P8

滋賀でサステナブル社会をめざす市民情報交流誌
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi



あづみ ネット

淡海
2019
110

Winter

発行日/2019年12月1日
発行所/公益財団法人 淡海文化振興財団

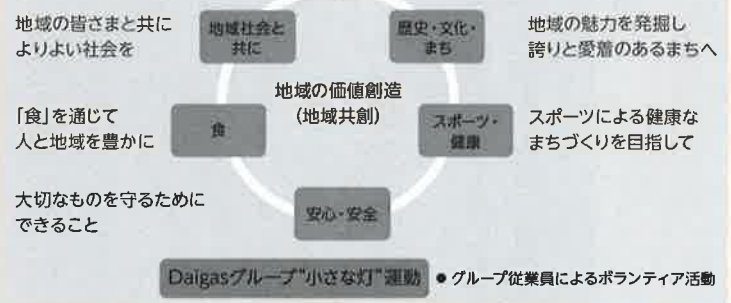
巻頭エッセイ●市民活動をサポート!

地域の皆さまと共によりよい社会を

Daigasグループは、地域に根ざした事業を展開し、地域から支えられています。そして、地域へのさまざまな貢献が、地域社会と当社グループ双方の発展につながる好循環を生み出すと考えています。そこで、Daigasグループは、従業員によるボランティア活動“小さな灯”運動をベースに、「①人(地域社会と共に)」「②歴史・文化・まち」「③スポーツ・健康」「④安心・安全」「⑤食」の5つの分野を中心に、地域の価値創造(地域共創)活動に取り組んでいます。具体的な活動として、①はグループ従業員などによる寄付・募金・ボランティア、高齢者や障がい者、児童福祉施設の子どもたちへの支援活動等、②は演劇文化の支援・発信等、③は陸上競技クラブ「NOBY T&F CLUB」やトップアスリートによる食セミナー等、④はエネルギー環境教育、防災教育等の推進、⑤は多彩な食育プログラムの推進等を行っています。

Daigasグループはこれらの活動を通じて、持続可能な地域社会の発展に努めていきます。

大阪ガス株式会社 滋賀地区副支配人 中村 哲さん



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

おうみ未来塾 リレーエッセイ

高浜の すばらしさの再発見 &訪れる方をもてなす心

私は、約5年半前に高浜町に移住しました。移住したきっかけは、高浜町に先祖のルーツがあったからです。高浜町では、地域おこし協力隊として3年間活動しました。高浜まちづくりネットワークの一員として、高浜町の地域資源の再発見や地域課題の解決に取り組みました。特に私の居住している地域は、少子高齢化が進み、小中学校も廃校となっている所もあります。私は廃校となった学校を利活用して、世代を超えた交流づくりをしてきました。また、地域の小中学校や地域住民と連携し、地域の魅力を町内だけでなく、町外にも発信する取り組みをしてきました。3年の任期を終えた後も農家民宿をオープンし、地域の魅力を世界中に発信しています。今では南アフリカやプエルトリコなど世界のあらゆる国の方に来ていただき、日本の田舎ならではの時間を満喫いただいています。また、高浜町に来てから子どもが2人増え、子ども6人、父・母、妻の合計10人で生活しております。今後の取り組みとしては、若者の働ける場所をつくりたいと思っています。最後になりましたが、おうみ未来塾や滋賀県の地域活動で学んだことは今の私の原点となっております。【人生に無駄はない】

おうみ未来塾
第12期生 山本 周作

- ・鹿深deござれ!
- ・おうみのふるさと物語
- ・甲賀市国際交流協会
- ・高浜町地域おこし協力隊
- ・高浜まちづくりネットワーク
- ・若狭たかはまひなまつりの会



「農」で地域を元気に！ 農山村の資源を活かして地域課題を解決しよう

日本最大の湖・琵琶湖を中心に、緑豊かな山々や田園風景が広がる滋賀県。この豊かな自然と文化を、私たちはどう次世代に引き継いでいけばいいでしょうか。今回は、このヒントを探るため、「持続可能社会」研究の第一人者である内藤正明さんに「農業」のもつ重要な役割についてご寄稿いただきました。

また、「活動団体紹介」では、農業を通じて地域課題の解決や地域活性化に取り組む団体について紹介します。

寄稿

「持続可能社会への道は 農山村再生にあり」

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター長
東近江三方よし基金理事長
内藤 正明さん

1. 日本の農山村が衰退して きたのはなぜか

【工業化による戦後復興】

全国の農山村で、仕事がなく経済が衰退し、人口も減って、社会そのものが消滅の危機にあります。これを食い止めるために各地で様々な努力がされてきましたが、状況は大きくは好転していません。その大きな理由は、食うや食わずの戦後の貧困の中

で、経済復興のために国が選んだ政策が、「工業立国」だったからです。それは間違っていないかたとしても、それと引き換えに、農林業は外国に明け渡しても仕方がないとしたことです。その結果、外国との競争に勝てない農林業は、工業の稼ぎで支えるという構図が生まれました。バブル崩壊によつてそれも難しくなり、支援を失った農山村の経済は落ち込んでいきま

した。それによつて職を求めて東京へ若者が流出し、国全体の人口減少とも重なり、地方の人口が急激に減少していったのです。

【脱炭素社会への転換】

しかし時代は変わり、地球環境問題が深刻になり、エネルギーを多く使う工業の発展が難しくなってきました。そして、地球環境のために、石油、石炭などを使わない「脱炭素社会」に転換するという国連での提案に、日本も合意しました。さらには、異常気象を止めるのももう難しいので、それを覚悟して備えようという「適応社会」への転換にも日本は賛成し、法律まで制定しました。

もし日本が本気で、この「脱炭素社会」と「適応社会」を合わせてめざそうとするなら、いまの大量生産型の工業社会から大きく変わる必要があります。その手段は大きく二つあって、一つは「自然共生型の農系社会」への移行、もう一つは「新たな技術によって問題を切り抜ける」ことです。現在の産業界やモノの豊かさを手放せない消費者は前者に反対していますが、もはや後者だけで解決できないことは、ここ30年近くの各種データを見るだけでも明らかです。

2. いま起りつつある変革

【自然資源を大切に】

ここでは、問題を根本的に解決する方法として、農山村を対象にした自然共生型への転換を紹介します。

異常気象で心配なのは食糧危機です。食の生産を担う農業は、損得を越えて、生存基盤として重要になります。また、自然エネルギー（ソーラー、水力、バイオマスなど）の活用には、自然の資源が大事になります。これら自然資源の利用は、地域の「知恵と力



▲農作業に勤しむ内藤さん



内藤 正明さんプロフィール

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター長
東近江三方よし基金理事長
吉備国際大学地域創生農学部参与
【経歴】京都大学工学部助手、助教授を経て、国立公害研究所(現 国立環境研究所)総合解析部長、京都大学環境地球工学教授、大学院地球環境学堂・学舎長、佛教大学社会学部教授。
【著書】「環境指標」「現代科学技術と地球環境学」「持続可能な社会システム」「滋賀県発! 持続可能社会への挑戦～科学と政策をつなぐ～」等。

と資金」による小規模なものになりま
す。それが、地域の雇用を生み、また
地域経済の循環を作り出します。さ
らには、生態系維持とレクリエーショ
ンや癒しなど、市民の精神的な豊か
さのためにも、農山村の役割は一層大
切になるでしょう。

【農村回帰の動き】

そのような時代の流れの中で、各
地で人々の農村回帰が少しずつ見ら
れるようになりました。しかし、障壁
は、「経済的な」ものより「社会的な」
もの、つまり新参者は入りにくい、農
業のノウハウがない、子どもの教育機
会や医療体制が充分でない、などの問
題です。最近では行政を中心に、それら
を改善する努力がされ次第に効果が
見られます。

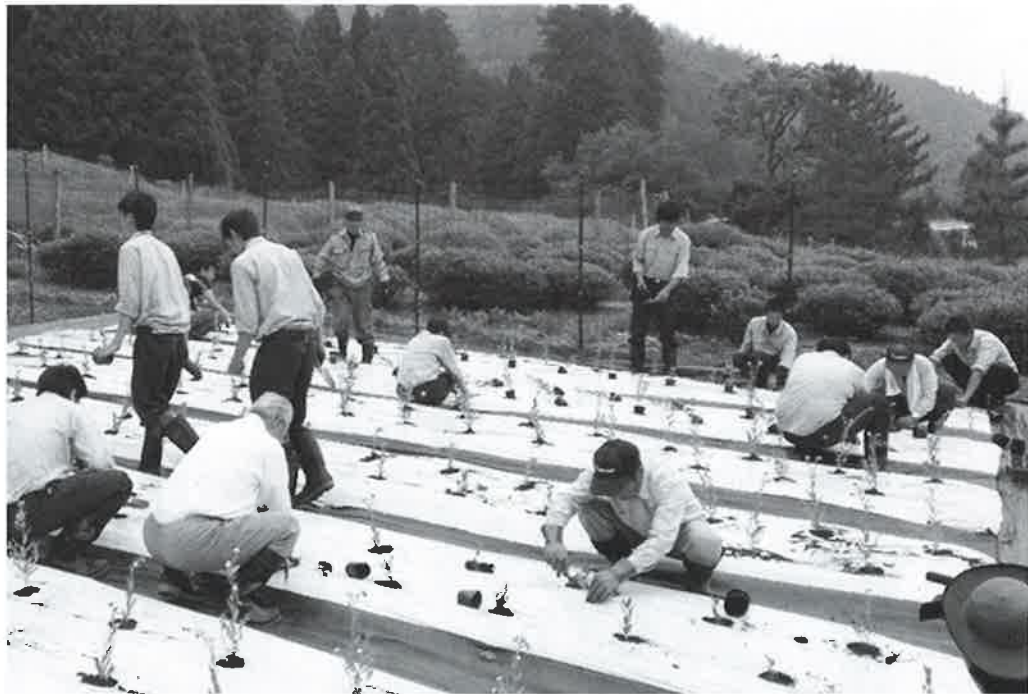
3. 農山村再生に向けた 試みの事例紹介

農山村の再生をめざして活動して
いる事例は各地に見られます。そのよ
うな活動に、筆者も少し関わってお
り、その一つは、農業地帯として知ら
れる兵庫県南あわじ市で、もう一つ
は、滋賀県東近江市です。事例として
それぞれの試みを紹介します。

南あわじ市で の事例

南あわじ市
でも、若者の流
出によって、地
域の衰退に直
面してきまし
たが、2013
年に農学部地
域創成農学科
の誘致に成功
しました。ここ
では、農業の専
門的知識だけ
ではなく、農に
よる地域創生
に貢献できる
人材を育てる
ため、村での実
学が重視され
ています。その

結果、毎年10数名の卒業生が地元
に残り活躍し、また新たな起業の芽も
見られ、将来が期待されています。こ
れからの計画としては、持続可能社
会のモデルとしての「エコビレッジ」づく
りに、大学を一つの核として、事業者、
NPO、行政などとの協働で展開す
ることも構想中です。



▲東近江三方よし基金の助成対象にもなった「株式会社みんなの奥永源寺」のムラサキ栽培風景

東近江市での事例

東近江市は市民活動が非常に活
発な地域です。そこでさらに、地域課
題の解決や地域活性化をめざす活動
を支援するために設立されたのが、
「東近江三方よし基金」です。この基
金は、「地域の食と農の再生」「森里川
湖のつながりの再生と活用」「子ども・

若者の学びや仕事を支える」「生業・
企業・ものづくりを支援する」など、
地元根差した活動を、市民・事業
者・行政が力を合わせて支える仕組
みです。2016年に設立されたこの
基金では、滋賀県で初めてSIB
(ソーシャル・インパクト・ボンド)とい
う、事業の成果に連動して出資金を
支払う手法を導入しており、昨年の
2018年度までに採択された13事
業全てが目標を達成し成果をあげて
います。

今後、農山村再生が重要視されて
いく中で、このような小さいけれども
地元根差した活動と、その活動を
地域で支えていく仕組みが、持続可
能で豊かな地域社会づくりの大事な
基盤となるでしょう。



活動団体紹介

「農」で地域を元気にしている団体を紹介します。

「政所茶」を次の世代につなぎたい

政所茶生産振興会(東近江市奥永源寺地域)

「政所茶」は、室町時代から約600年続く歴史を持つ銘茶で、東近江市奥永源寺地域で栽培されている希少なお茶です。多くの日本茶と異なり、産地全体で農薬や化学肥料を使わず栽培されています。茶の樹を大切に作る昔ながらの栽培方法が、「香り高く、余韻が甘い」特有の味わいを生み出しています。

しかし、高度成長期の生業の変化、担い手不足や高齢化などから、生産量は激減し続けています。政所茶は全国でも2%しかない希少な在来種がメインの産地です。茶畑が谷筋の急斜面に広がっており、茶摘みをはじめほとんどの作業を手作業で行う必要があるため、生産コストがかかり、現在、政所茶だけで生計を立てられる農家はないのが実情です。今や「幻の銘茶」として、存続の危機に立たされています。

そこで、地域おこし協力隊として政所茶の存続に取り組んでいた山形蓮さんは、地域の生産者とともに「政所茶生産振興会」を立ち上げました。「政所茶を次世代につなぎたい」という想いのもと、生産現場の現状把握や課題整理、老朽化した茶工場の存続のための働きかけ、政所茶の価値を理解してくれる販路の開拓等、産地の抱える多くの課題に総力戦で取り組んでおられます。振興会ができて生産者がともに悩みを相談しあえる場所ができたことで、次の世代へつなぐ希望が見えてきたそうです。



▲政所茶を支える皆さま

DATA

代表/左近 晋作 設立/2017年
 連絡先/滋賀県東近江市政所町966
 E-mail: mandocorochoa.info@gmail.com
 HP: https://mandokoro-tea.com/

「政所茶のあり方は時代とともに変化していくかもしれない。でも、先祖代々続いてきた政所茶の『大切な部分』は未来へ残していきたい」と山形さんは600年もの間、政所茶を守り受け継いできた、奥永源寺地域の「自然と生きる暮らし」。この暮らしの中にこそ、私たちの向かう「持続可能な社会」の原点があるのではないのでしょうか。

休耕田の活用で、地域を元気に

もち米プロジェクト(大津市仰木)

「もち米プロジェクト」は、大津市の仰木の里地区を中心とした41名のメンバーで2004年に活動を開始し、15年間活動を続けている団体です。

仰木の棚田の休耕田を活用し、仰木地区との交流、地域のふれあいの輪を広げることなどを目的に、もち米の田植え・稲刈り・餅つき・しめ縄作り・とんど焼きなど、一年を通して、農作業を楽しむ活動に取り組んでいます。

活動場所は、二本桜で有名な、馬蹄形の棚田のすぐそば。日本の原風景ともいえる美しい棚田が広がる場所にあり、田植えや稲刈りに参加する子どもたちは、田んぼで泥んこになったり、蛙や虫を捕まえたりと、土に触れ、自然にどっぷり浸かって一日を楽しみます。また、化学肥料を使わず豚糞と比叡山の山水で育てたもち米は、格別に美味しく、お餅にして皆で食べるほか、地元のレストランでも模擬店を出店しています。

一方で、山あいの自然豊かな場所なので、天候と獣害には毎年苦労が多いとのこと。水は、比叡山の山水が頼りなので、雨が降らず水不足になると地割れが起き、緊急時は、川からポンプで水を汲み上げることもあるそうです。獣害は主にイノシシ・シカの被害で、稲をな

ぎ倒したり、食い荒らしたり。苦労は多いですが、皆で力をあわせて課題を乗り越えています。

活動継続の秘訣は、「強制がなく、無理なく参加できること」。参加はポイント制で、ポイントが多い人はもち米の配分を多くするといった工夫もしています。また、バーベキュー大会など農作業以外のイベントも楽しみのひとつ。仰木の里にお住まいでなくてもメンバーになるのは大歓迎のことですので、ご関心のある方はぜひご連絡ください。



▲稲刈りの様子

DATA

代表/中西 康文 設立/2004年
 連絡先/Email: moti@oginosato.jp
 HP: http://oginosato.jp/mochikome/index.html
 Facebook: https://www.facebook.com/mochipro/

で活躍する
の「いま」と「これから」
レポートします!



皆で支えあう
地域づくりをめざして

比良里山クラブは、大津市南比良の「比良まほろばの里」を拠点に、比良山麓の里山整備や子どもたちの自然体験等をテーマに活動されている団体です。

活動のひとつである赤シソ事業では、比良の里山で無農薬、有機肥料で栽培された赤シソから、赤シソジュース「比良ペリラ」を製造し、その収益を子どもの環境学習や里山保全、地域づくりに充てています。また、「おうみ良なる! 元気商品プロジェクト」の寄付付き商品として、淡海ネットワークセンターの未来ファンドおうみ「びわ湖の日」基金にも売上の一部を寄付いただ



▲赤シソ収穫の様子

ており、琵琶湖の環境保全に関わる実践活動や調査活動などへの助成事業に役立てられています。

さらに、滋賀県の協働提案事業の一環として今年5月、「ひら制作所(通称:比良ラボ)」をオープンしました。空き家をリノベーションして造ったという「比良ラボ」は、地域



▲比良ラボでのイベントの様子

の人が集い、交流できる地域サロンですが、“利用者をお客さんにしない”のが信条。どこまでも主体は地域にあります。

「地域の誰もが気軽に立ち寄り、ちょっとした相談もできるような場所をつ

くりたかった」と代表の三浦さん。比良ラボができたことで、地域の人と団体のつながりが深まったことが何よりもうれしかったそうです。今後は比良ラボを拠点に、地域の皆さんと一緒に活動を継続できる仕組みをつくっていきたくてと抱負を語っていただきました。

一般社団法人 比良里山クラブ

- 代表 / 三浦美香 ●設立 / 2003年
- 連絡先 / 大津市横木2-25-12
TEL: 077-527-2833
URL: <http://hira-satoyama.net/>
FaceBook: <https://ja-jp.facebook.com/hirasatoyama>



もったいないを
「笑顔」と「絆」に



▲フードドライブ実施中

「滋賀から飢餓を完全になくしたい」、そんな想いのもと、フードバンクびわ湖では、食品ロスを活用し、生活困窮者を支援する活動に取り組んでいます。企業や個人から寄付された食品を、福祉施設や子ども食堂等の団体、支援依頼を受けた個人宅に無償で提供したり、フードドライブ(地域福祉団体などに寄付する目的で家庭で余ったものを持ち寄る活動)の実施など、民間だからこそできるネットワークで困窮者の支援をしています。

共同代表の堀さんは、はじめて困窮者のところを訪問した際、自分の身近な地域にも飢餓に苦しむ人がおり、しかもその中には20代30代の若者もいることを目の当たりにし、衝撃を受けたといいます。「日本は最低限の生活が保障されているはずの国なのに、現実にはこの滋賀でも飢餓で亡くなる人がいる。これは何とかしなければと思いました」と堀さん。

そんなフードバンクびわ湖の活動は、セーフティネットの一翼を担う存在として行政や各種団体からの支援要請も多い一方で、その運営資金は常に不足している状況にあります。現在はボランティアによって支えられています

が、それだけでは今後の運営は厳しいのが現状だそうです。家庭に眠っている食品(※賞味期限が切れる1か月前のもの。特にお米はありがたいです!)がありましたら、ぜひフードドライ



▲滋賀県庁でもフードドライブ実施しました

ブへのご協力をお願いします。下記までご連絡いただければ、取りに伺います!

2019年度「笑顔あふれるコープしが基金」助成団体

フードバンクびわ湖

- 代表 / 曾田 俊弘、堀 豊 ●設立 / 2018年
- 拠点 / 甲賀市水口町、近江八幡市堀上町、野洲市木部
- 連絡先 /
TEL: 090-2017-6822 (曾田) 080-8522-0220 (堀)
Email: foodbankbiwako@gmail.com
URL: https://peraichi.com/landing_pages/view/foodbankbiwako



社会貢献する

「世間よし」企業紹介



滋賀らしいお花屋さんで
琵琶湖を守りたい



▲滋賀県産の花・素材を使った母の日ギフト

「Flower produce ichica」は大津市にある、地域密着型のお花屋さんです。フラワーギフト販売、イベントディスプレイ、フラワーレッスンなど幅広く手掛ける傍ら、地域の役に立ちたいと、琵琶湖を守る取り組みにも力を入れています。

菊の生産農家だった祖父の影響で、幼い頃から花が大好きだったという代表の岩上さん。学生の頃、花屋でアルバイトをはじめ、社会人になってからも、ホテルや式場でディスプレイやウェディングフラワーなど、まさに「花」一筋で経験を積み、2014年に独立開業しました。「『滋賀らしい、滋賀でしかできないお花屋さん』をつくりたかった」と話す岩上さん。その想いのもと、2016年から琵琶湖の環境保全に貢献すべく「Biwako Sweet Project」をスタート。滋賀県産の花や素材を使ったギフト制作、琵琶湖の水草堆肥の店頭配布、子どもの感性を育てるためのワークショップ、琵琶湖を守る活動への寄付等、様々な取り組みを行い、その功績から平成29年度「しが生物多様性大賞」特別賞を受賞されました。

「一事業者としてできる範囲は少しかもしれないが、活動を通じて多くの人に琵琶湖に関心を持ってもらい、それが琵琶湖を守ることにつ



▲しが生物多様性大賞 特別賞を受賞

ながれましょうね」と岩上さん。今年11月末には、大津京に新店舗もオープンしました。滋賀のとても素敵なお花屋さん、是非一度足を運んでみてください♪

株式会社 一花

- 代表取締役／岩上智佳子 ●設立／2014年
- 店舗情報／

Flower produce ichica フォレオ大津一里山店 077-572-8741
Flower produce ichica ブランチ大津京店 077-526-8739
URL: <http://ichica-flower.com/>



子育て支援

自然体であたたかく
寄り添い、支えたい

東近江市にある「ぐるりの家」は、助産師と母親たちが立ちあげた子育て支援の団体です。東近江市からの委託で「つどいの広場」



▲ぐるりの家の皆さま

を週4回開設しているほか、お産塾やベビーマッサージなど、多彩なイベントも開催しています。

昔懐かしい和風の家の一角にある「ぐるりの家」は、子どもと一緒に遊んだり、お昼ごはんを持ってきて食べたり、ソファで本を読んだり、好きな時にきてゆったりと過ごせる場所です。どのスタッフも子育て経験があるので、日常のちょっとした悩みをおしゃべりすることもできますし、研修を受けた子育て支援員もいるので、安心して相談もできます。

さらに今年の夏からは、「子育てを独りで抱える方を一人でも多く支えたい」という想いのもと、新事業「訪問型子育てサポートLoops」をスタートしました。育児経験のある



▲旬の素材をふんだんに使ったLoopsのお料理

女性スタッフが妊娠中や出産前後の家庭を訪問し、料理・洗濯・掃除といった日々の家事をサポートするほか、必要に応じ、助産師のケアにつなげることもできます。利用者からは「産後の動けないときに料理や掃除をしてもらい、すごく助かった」「スタッフの方に子育ての不安を話したり、受けとめてもらえるのが本当にうれしい」という声をいただいているそうです。身近に出産や子育てで奮闘している方がいたら、ぜひLoopsの心温まるサービスを教えてあげてください!

ぐるりの家

- 設立／2011年
- 連絡先／東近江市八日市緑町17-5 ぐるりの家
TEL: 050-5278-0364 (火～金 9:30-15:30)
Email: info@gururi.org URL: <https://gururi.org/>
- 【訪問型子育てサポートLoops】※サービスは有料
TEL: 050-5360-9010 (平日9:00-18:00) Email: loops@gururi.org

チェンジ Changeにチャレンジ! 応援BOX



募集

●2020年度 未来ファンドおうみ助成事業の募集

未来ファンドおうみ助成事業の募集が始まります。募集にかかる説明会を開催いたします。多くの方のご参加・ご応募をお待ちしています。

【助成事業】

- ①びわこ市民活動応援基金助成 ②びわ湖の日基金助成
- ③積水化成品基金助成 ④笑顔あふれるコープしが基金助成
- ⑤ナカザワNEOフレンドシップ基金助成
- ⑥げんさん食育NPO基金助成
- ⑦湖国文学活動応援むらさき基金助成
- ⑧びわ湖源流の木遣い応援もえぎ基金助成

【応募受付期間】

2019年11月20日(水)～2020年1月10日(金) 17時必着

☆☆ 募集説明会&助成金申請書の書き方について ☆☆

近江八幡 12月10日(火) 10:30～12:00 滋賀県立男女共同参画センター

水口 12月10日(火) 14:00～15:30 水口中央公民館

長浜 12月12日(木) 10:30～12:00 さざなみタウン
(長浜まちづくりセンター)

大津 12月14日(土) 10:30～12:00 淡海ネットワークセンター

※詳しくは、当センターホームページをご覧ください。(担当:荒堀・澤)



講座

●NPO決算講座&個別相談会

貸借対照表が公告義務となった今、正しい計算書類は助成金や寄付を受ける時に、とても重要になります。今さら聞けない悩みも専門家に聞くチャンス!正しい計算書作成で信頼される団体をめざしましょう。

◇講師: 会計編 荻野 俊子さん(NPO会計支援センター代表)

税務編 横井 昭次さん(税理士法人 横井会計)

◇日時: 会計編 2020年1月18日(土) 13:30～16:30

滋賀県立県民交流センター303会議室

税務編 2020年2月 5日(水) 13:30～16:30

滋賀県立県民交流センター205会議室

◇参加費: 500円

日本政策金融公庫国民生活事業は みなさまの身近な政策金融機関です。

- ・NPO法人のみならずもご利用いただけます。
- ・新たに事業を始める方にもご利用いただけます。
- ・経営に役立つ情報をご用意しています。

新たに事業を始められる方へ

新規開業ローン

中小企業・小規模事業者のみならずへ

国の事業ローン

お子さまの教育資金を必要とされる方へ

国の教育ローン

お問い合わせは

JFC 日本政策金融公庫
国民生活事業

大津支店 国民生活事業 TEL077-524-1656
彦根支店 国民生活事業 TEL0749-24-0201

お気軽にご相談ください。

日本公庫

検索

市民活動を応援する淡海ネットワークセンターの事業をご紹介します。



お礼

●未来ファンドおうみへ ご寄付ありがとうございます。

この支援金は、滋賀の市民社会を良くしようとがんばっておられる、市民活動団体へ助成して、皆様のお気持ちを伝えながら、おたがいがまがつながり、活きる地域を創るために活用させていただきます。

(50音順)

- ・株式会社ナカザワ様 「ナカザワNEOフレンドシップ基金」
- ・元三フード株式会社様 「げんさん食育NPO基金」
- ・循環型社会創造研究所えこら様 「びわ湖の日基金」
- ・生活協同組合コープしが様 「笑顔あふれるコープしが基金」
- ・積水化成品工業株式会社様 「積水化成品基金」
- ・第5回びわ湖チャリティー100km歩行大会実行委員会様
「びわ湖の日基金」
- ・有限会社 豆籬様 「びわ湖の日基金」
- ・匿名 「びわ湖源流の木遣い応援もえぎ基金」
- ・匿名 「湖国文学活動応援むらさき基金」

●下記の皆様から賛助会員にご入会いただきました。厚く御礼申し上げます。(敬称略、50音順)

<法人・団体会員>

甲賀高分子株式会社・滋賀ダイハツ販売株式会社・税理士法人横井会計・琵琶湖汽船株式会社

<個人会員>

板倉成子・遠藤恵子・奥村清・岡治利和・川辺恵子・勝身真理子・北村裕明・木村健治・木戸光彰・櫻田満・里西薫・菅江克弘・竹村健・辻博子・寺本勉・徳本次夫・中村淳子・中井善寿・広実照美・福永忠克・藤井絢子・堀茂樹・村西耕爾・目片佳子・森口行雄・森良和・山本昌男・匿名37名

編集後記

今回、取材で久しぶりに仰木の棚田を訪れ、美しい風景に癒されました。滋賀の豊かな自然と文化がいつまでも守り継がれていくことを願っています。(淡海ネットワークセンター 佐藤 麻里)

おうみネット Winter

Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■情報交流誌「おうみネット」は登録いただいている県内外の団体・個人のほか、次のところに配布しています。(50音順)
関西みらい銀行、京都信用金庫、県内公民館、県内公立施設、県内市民活動支援センター、県内社会福祉協議会、県内市役所・役場、県内図書館、県内中学校・高校・大学、滋賀銀行、滋賀県信用組合、滋賀県庁、生活協同組合コープしが、他

淡海ネットワークセンターのHPは右記QRコードでご覧いただけます。セミナーや助成金、イベント情報も掲載しておりますので、ぜひご利用ください。

〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海 2 階
TEL: 077-524-8440 FAX: 077-524-8442
https://www.ohmi-net.com
E-mail: office@ohmi-net.com
開館日: ○市民活動ふらっとルーム/火～土曜日
(火～金曜日の祝日は休館)
○事務所/火～日曜日



この印刷物は大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。